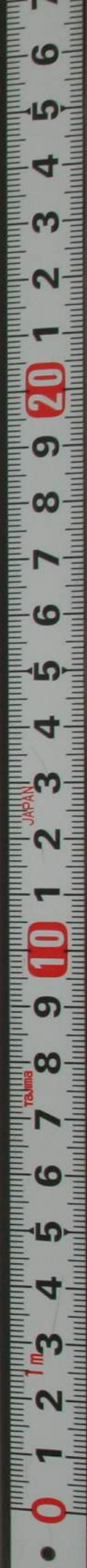


憲教類典

五ノ十三  
錢  
五ノ十四  
町奉行  
砲

3保7

2770  
53





憲教類典

五ノ十三

竹沢字

門ノ部 3  
番 2770  
巻 53



萬治三庚子年三月十三日



海濱家清代之於大坂近邊以銀炮不打所之事  
強可修止之者此作出此存其趣古料私領之  
斗百不速暗之由徑在觸之魚之小恐之謹之

三月十三日

稻葉美濃守  
阿部豐後守  
杉平伊豆守  
酒井雅左致

内藤帶刀殿  
係科澤正忠殿  
安部孫傳芳殿



松平集人正版  
唐部五巻下段

寛文二壬寅年九月

關東山中筋法以事 鉄炮清免之砂取り上り  
しも穢河之并鉄炮所持連々ら尻白濁を外  
之在之所、今停止之召之地之鉄炮代更より左  
改之鉄炮所持連々上之穢河之并鉄炮打  
事之幸之は地鉄炮代更より 札之御村并鉄炮主之  
名を書付在之尻白濁一併人并鉄炮を可之役て為  
之用由堅之申付之事連々皆つこ一鉄炮合所持

屋敷下より尻山御村并鉄炮主之ものありはて申出  
之砂取り之事つこ一其料を申すは鷹取  
て下之自然かこ一並地所よりありそす  
おめ之を法書置て上之所之名之五人組あて  
之行最科之者名之申付者人

九月

延宝三乙卯年三月

關東中筋法以事 鉄炮合所持先年よりは制  
禁之事近年穢河打撃より其間有之自今以存  
之所之流人比代更より改之鉄炮を永上之以



本年乃砂持所仕程子望之申付也但山入りて鉄  
炮を打して不叫砂持は代更又之依人より郷村  
を書付札を出しうたせし申付也百町人至性向好  
鉄炮より砂持あり

三月

延宝四年辰年七月三日

覺

關東乃砂持に砂持におおて不性鉄炮不可砂持に  
分は以前は作付雖も觸る所存に改依也之  
此後砂持より申付也今度之は飛入して代更

和願之地辰方寺社願其位持津之在鉄炮並葉  
少は具お悉て辰上之但し是方所以下之西之去欠  
救記水面支配方迄の事よふ山方高嶺河之  
てふ竹分る事砂持之代更位持津より古  
延宝辰方江中町にて任事重白為比穿鑿括使て  
七老一毎各断し之鉄炮を砂持掌持在りて  
詮及り上る所存て辰辰科者之

延宝四年辰年七月三日

延宝四年辰年七月三日

口上り覺



一浪人百餘人向海地飲者ありて其間有村小民在  
 某處殊炮撃く由降中村切小殊炮て其上等  
 一函に初め子に引花懸置浪人殊炮天孫子  
 其島を賑支配官其中窺て任事ありし

辰七月三日

貞享二乙丑年二月

定

次日根少殊炮打小者あり由其間不届く事あり  
 若院に立寄ありて乃其事  
 一殊炮打者捕小者阿らる

一回終り内より誰人あ出り者阿らる 銀二百枚  
 一殊炮打小者尺屋其者あり 銀百枚  
 右に連日夜裏其等下し候為内取に云其日料を  
 中より阿らる子成根より中付あり

二月日

貞享二乙丑年二月

寛

次日根少殊炮打小者あり其札立小に官字状  
 者殊炮打小者の捕小者阿らる其料和飲り候事



近御之者子進出后よりにがさるる節、向一法  
事乃所止て事出ぬ荒ふ出合事ハ後りふ丸園中  
とふふて為出事者之

二月日

貞享三丙寅年四月廿二日

口上之覚

隈地改内法注一用之 作付川渡文お、依河地  
権者所の如最事所言はては丸何々以上

甲、廿二

隈地改内法注一用之

何國何郡何村

用之隈地

右拙者領分何村に取ら物驛には所々存付可性  
新依付之能事為用之隈地何提可性預事  
交合事所少事新之通也 作付、以之隈地監  
賊人、子事速送送恨多、名柄在數中然も  
外、七悪事仕出、小、おわ、八、在、人、ハ、及、中  
名之五人進出て為出事、旨急度中付、五、ハ、且、又  
右之隈地之能事一切付多、此隈地、其、他  
人ハ、及、中、從、親、子、先、牙、ハ、小、出、在、ハ、事、隈、地、預  
之、外、餘、人、は、情、中、交、合、以、仕、君、交、臨、中、付  
以、右、之、権、者、皆、中、ハ、之、何、様、之、由、事、ハ、上、也



仙付名之五人 巡陟施預之方より子形に事  
山為之如比は此山の上

何子何部何お

月如陟施

右担者願分し内麻猪乳出作毛阿らし子性達者  
信不物丈玉込而中山陟施を百とし中在陟施  
任提何月より何月まで至性、預々中反者其不  
至は作付小着衣し陟施を玉込為し仕出  
中山乳又と殺せ侍あり 夫人は及中従親子  
足并三命成せし其鉄炮預り五より外家人は信  
中多者以仕呂取山堅中付小右、預丸背中  
山より何採り曲事としては 作付し与名之五人

但陟施預り之方より子形に事小為る其形は  
山の上

何子何部何村

以鉄炮

右担者願分陟施去政山家何村を山方言高打多  
出地毛何らし中より付小提之親也此中上おと  
しの為不陟施何提不性砂持仕小玉込より小  
鉄炮を百とし中在存、畜乳滑あり其一應り  
仕出し中山乳又と殺せ侍あり 夫人  
ハ及中在之五人預りて為曲事 与急夜中付  
妻山陟施し其他人を及中 従親子足并高  
此山の上 陟施持より外家人は信中其曾以仕



石取山以望中付立山右之流在背中山の、何指し  
曲事之をしては 仰付之者名之五人組決地持之方  
より形取立中付為其形此山の上

何より新何書

以決地

古指名能分決地取改山右何おる山方之白提規  
流中上瞬河決地何提地所持持往送位市  
川五決地能分持之舟急之仕出し中山の持て  
之者人合 中付各之五人組造て為曲之方急  
取中付立山右之決地他人ハ不及中從親子之  
中之白決地此山の決地持之舟急人此持中交  
皆以仕官取山以望中付立山右之流在背中山の上

權之曲事之由ては 仰付之者名之五人組決地持之  
方より形取立中付為其形此山の上  
右取地分市社在右決地取改山右何と過何  
村下為用心決地何提何村右急取持之舟急  
取立市中決地何提何村右急取持之舟急  
持之舟急此山の上何自今以存之形能所持持  
為多堅中付村即子急之五人組方より形取立  
中山の上此山の上

年号月日

何事  
公 村



貞享四丁卯年十二月廿八日

一 是月朔日階龍の文以長出付朔の也 柳一厚

此は作指の近古関八分斗は段しふ分は六  
十六斗也は段し方也

一 西之段所持の川如く為角物を積少船子付川

形事乃声少く 段し担平打し為物不積船

二 夫も今迄も改担平打付船也

高き如く改小百向長川如く 白少河川船

事乃は此迄担平打也中者也

天禄天保元年四月晦日

覺

一 是月也 橋本根何れの時方と一階龍少く拂去

而不止時をてつ而も先 打也 何れ山を 子進念つ

山向を付進出付し一 大目付中にて上中出

候向小くを上して中付小をを流し美く山向

下くは若くは難候山等 有て是迄も之を江

別にて是れ也

一 是れ生れ憐れ美也 仰出のをも人々仁心

候候山指ししの思良取也 仰付事く山海を

指して是れ山海也







一江戸より十厘口方大糶所なりと 子と一却お  
るんふれ上て申す

但糶所極多く出田爲をあらし人馬高擧り子  
性及難系山節大るんふれ段段に五何之糶所

是子

一関八外ふく入るんふれ段段は例年以て  
括出ふり此年及る候に尤糶所其に擧り料  
糶所社能其より急なる申す  
右に録して所を意し已上

享保二 丁酉年五月

享保二 丁酉年五月廿五日

銀燈段段より此中筋の如

一関八外初め所及る高に七候に銀燈と申す  
出り又八家永年之七候に地頭より括出  
おし一るんふれ上て一るんふれ或異八外  
初め所及る申す出付て括出者之

酉五月廿五日

大目付格田中守より筋小

享保二 丁酉年七月廿日

貴







取本分は其て所ふと氣を修置に載てはる  
あふ

一 笑八海之内、不知何所あり、其世にふれ又と  
は飛米、白の哉、之殿ては作羅の也上

七月

仙乃丹浮守  
此田産後守

享保二丁酉年十一月十日

去程、小石川、長瀬、皆、近堀、後、の、処、より、ふ、あ、六、規  
引、揚、小、石、川、より、年、手、控、布、の、と、は、あ、あ、え  
川、来、り、竹、南、長、津、に、作、あ、ふ、十、里、四、十、と、つ、不

あ、少、林、に、上、り、あ、本、の、村、に、出、り、か、つ、れ、の、者、も、あ、り  
右、の、邊、り、の、村、も、少、知、若、心、持、束、は、る、に、近、り、あ、あ、あ、あ  
去、不、苦、ふ、百、南、西、十、二、月、十、日、迄、に、出、出、し、て、中、の、取  
り、物、を、所、り、好、三、院、五、の、故、瓦、知、り、く、急、な、な、り、わ  
曲、事、を、年、一、の、上

西十一月

享保三丁戌年七月廿五日

大久保長門守殿に書

清月村江

免



江戸幕十尾中戸之内、有之武士、所及、有之浪  
人、陸炮、所持、仕、り、有、之、取、改、之、所、及、之、方、下、之、り  
所、上、取、之、之、傷、者、并、之、つ、り、下、之、所、及、付、八、月  
中、に、陸、炮、取、改、之、有、之、之、長、任、之、所、及、此、の、好、之  
つ、り、下、取、持、之、浪、人、有、之、之、長、任、之、所、及、付、  
之、七、年、取、之、以、

七月

享保三戊戌年七月廿五日

定

浪人、獲、之、り、下、取、持、之、有、之、由、之、同、之、所、及、之、之、

若、隠、之、之、之、所、及、之、之、

一 陸炮、打、之、者、捕、之、之、有、之、之、

銀、三、百、枚

一 同、類、之、由、り、所、人、之、取、之、有、之、之、

銀、五、百、枚

一 陸炮、打、之、者、見、所、之、者、之、名、其、所、中、之、有、之、之、

銀、五、百、枚

右、之、通、は、廢、美、之、下、之、繼、同、類、之、之、之、之、之、  
料、を、申、上、之、何、を、申、上、之、之、之、之、之、之、  
右、之、通、之、事、は、作、出、之、之、之、之、之、之、之、



了つる事打取之新に山内九捕以又中出矣  
も其之石廟に事ふ向在在之而若くは事打  
以者多し山内中出取し兼所為備之地、事  
也此山内捕以見出し小を事し中出入し事  
以備之矣乙以下事也

享保三戌戌年七月

先年臣作事之礼此改以保去し取事八ヶ  
馬取事多し而し建事事也其の事也其江  
名之濱岡七取事也其の事也其の事也

取方此濱文に立事中山内事也其の事也其の事也  
其取事也其取事也其取事也

戌七月

享保三戌戌年八月

一 去月十一月頃味之上浪人醫所并所人の取持し  
鉄砲商賣鉄砲取り取砲取北上山鉄砲取賣  
掛山取外江取り取事取事取事、双方事所  
年取江取取事取事取事

一 去月十一月臨北上山外に町中取持取取取取



借裏のよきものにて何よりつるふ子宮大い其又  
と解りしは是又何年か江に中出る

一町：小孫在り其地所、介港よりふと在り  
右取又何年か江中出るより上流流に流る  
中

一町：三向浪浪人、流傷しりくつるふと取  
持少れ又、強り流炮をとり在りしれ及水味流  
傳いし後子速何年か江に中出る

但強りつるふと取つるふと取  
お唐のこり及小  
右に連所中子取つる知者

八月

享保六年 年 丑 年 七月 十日

大久保徳屋寺殿 此後

御月付江

関八条之角ありてつるふと取高貴之御向存  
とて仕り最右に取らむとす 持年より其取  
中 是右 取らむとす

丑 月



享保六年 丑年二月十二日

高札下出

在之高札下出 高札下出の者あり、中出屋し  
并出為陣之内、知事元中高札下出見出し、  
あり中出、高札下出、高札下出

享保六年二月

高札下出 高札下出の者あり、中出屋し  
并出為陣之内、知事元中高札下出見出し、  
あり中出、高札下出、高札下出

免

高札下出 高札下出の者あり、中出屋し  
并出為陣之内、知事元中高札下出見出し、  
あり中出、高札下出、高札下出

高札下出 高札下出の者あり、中出屋し  
并出為陣之内、知事元中高札下出見出し、  
あり中出、高札下出、高札下出

丑二日

享保六年 丑年四月十八日

五年以前 丑年四月十八日 作高札下出見出し、  
あり中出、高札下出、高札下出



又 法華坊より外へ四月朔より七月晦の迄は切  
て并挿打を中へしむ打物の中へつる所は改むる所  
打せし中へしむ又つる所は打物の中へしむ又七月晦  
日より又つる所は改むる所へ付ては是より

但八月朔より三月晦の迄は是より近し通ては  
管山以上

丑四月

享保七年 寅年十二月九日

関八州物産多し由ありしつる所は是より去年

御存候より外へ投銅物を如四月朔より七月晦の  
迄ハ已込つる所は御先より精進根等打殺の者ハ  
以て既向々に有候はる心持速く所も是より後中  
つる所は打也而中候より是より又是より是より投銅  
物より多しは是より是より是より是より是より是より  
川原より是より是より是より是より是より是より是より  
承知申のより是より是より是より是より是より是より  
少なりしつる所は是より是より是より是より是より  
是より是より是より是より是より是より是より是より  
ては是より是より是より是より是より是より是より

寅十二月



享保十一丙午年九月十二日

信板寺殿付後

御月付江

此後或有多摩郡之内法創修し隠し之つゝふ  
陸所持の者又を打女の有之殿は詮及し上武  
為所次村在之老人田小園寺村者老人通正  
此作行の取定よりあり村に之者之田富土上  
之組頭新村中より掛り合ひ者迄来り迄料中  
中付目義石心持連より出付迄ふありふ  
所抄より一以者あり之に法料天法代支料銀六  
貫地所より取取れ上主事出之取取年未二月迄に

了るる段にあり處の中不此處有袴中出さつた  
所帯出りり、法料銀六貫二日迄し内不  
帯出の分迄ふあり之、商人の向端者之組頭在  
村中迄出仕立て也 作付事

左之法園八等、角は料天法代支料銀六貫に  
支取、より名度て中極、

享保十二丁丑年四月廿八日

大久保信厚寺殿付後

御月付江

関八河之内猪鹿狼荒山方より自今新以分



了りふ何提ぬ其ては電使の旨了りふ所子路に  
ありしは清なる事小元成に名之れ中付糧之量之  
極之望に中付小打出時節清等し候へ唯今  
迄に運て此れ心得小  
右に張園八畝の内法料夫は成安寺社領和願天  
之支取清より名渡り中付糧以上

未四月

享保十四己酉年二月廿七日

徳和寺殿付後

清月付江

覚

一園八畝在、精庵多出作毛其取小節其久近を  
月切と仰りて了りふ打甘小持其自了りふ不  
及至候精庵打不陟炮不性、預ヶ思事其  
為打中不形打仰小節了りふ改自承合候  
文而了り中、山御事年より天正月中一夜に禮  
文陟炮改に重出て中事

此岸精庵 江戸十尾四方唯今迄に過り了りふ  
不為打中自取候但十尾四方と有し候り其摺  
より東に西に也江上里とて五心増し事  
但精庵多出耕作荒れ、姑方了り了りふ







明和五戊子年九月廿二日

杉平方山少監殿  
水野寺政 申取

大目付

江 涉目付

近年控釣桶近村四季打銃砲多々故右之由  
季打銃砲少 雖是控釣桶之由江控砲取持之者  
并殺生人土流年々之者形々大成入込隠し控砲  
打且多殺生人有之由成之由成入込隠し去矣年々  
控釣桶村之江有觸以近以年控釣桶内之村役人

百姓其控と申合控釣桶内之村之江控砲取持之者  
并殺生人土流不入込隠し控砲取持之者江  
控と成入込隠し控砲取持之者江控砲取持之者  
り之由成入捕金之由成入捕金之由成入捕金  
其之由成入捕金之由成入捕金之由成入捕金  
此有成入捕金之由成入捕金之由成入捕金  
控釣桶内之者其由成入捕金之由成入捕金  
取小隠し控砲取持之者其由成入捕金之由成入捕金  
訴人少々之由成入捕金之由成入捕金之由成入捕金  
之由成入捕金之由成入捕金之由成入捕金之由成入捕金  
以下小事



一 控御情之近村之四季打洗砲有之場所之  
村を急夜ある控御情内止一切主人を教介  
他所より隠しつる所を取替へる事希敷事人共  
以得て控中孫を留山等十有之故控御情は右  
村に若入込山由不同所届に在りし山村等は他  
村より隠しつる所打つる且事教主人一掃し  
去れ紙以て捕生去出目探之許由是又山鹿  
等下下之無四季打山村等之主村内を急夜  
お争り控御情を及中他村は銃砲を改め持之  
入り教者之

但四季打つる所有之村に一つ所おあふし

節或天つる所ふふくお江上表に持来し  
御控御情田を洗平に村等より右掃之長  
村等より江上表に出ししを村及人共より書  
付持来し及江上表より、控御情は代家秘領  
天領之地領よりし書付は向持孫迫所置所  
之探之急夜つる所おあ  
右に強控御情内外村等在る急夜つる事、一列  
右控御情内村等より若事同或村等あり銃砲  
打し急夜を教主人共之又山等より見のり急  
以て外より控御情を村及人共近急夜つる  
所



太之飯庄料之内代更私飲天飲之地頭若与社飲  
凡不淺標之ては有弱也

九月

卯和七 庚寅年五月廿五日

水野出羽守殿様

卯月付江

園八分 御朱印地除地共与社飲之り所子取取持  
取在面射向家持代更領之地頭江以上五山火七  
有之少く 其方も出付之申出以都占取持之 決絶  
多敷取此は多地端取之 其本与寺院并神也

社人亦入向家之在持取持代更領之地頭江出付之  
申出以右申付向之り 南九月廿五日 近松平任時守  
方江之申出也

但但支配有之 面々天意流之り 出付之申  
出事

右之通て此有弱也

卯和七 庚寅年五月廿五日

松平右京右大臣  
西井右近将及 其後

大目付江



御月付江

閏八月 御朱平地陸地其神社領陸地所持之  
其付て重出小条、所持段一、陸地、南内、向中、地  
代、領主、地、領江、一、五、上、五、山、七、有、之、川、之、之、有、之、  
其付て重出小都、所持して、所、不、有、敷、去、江、地、  
南地、領、領、主、所、持、江、其、付て重出小、領、陸、地、  
之、世、古、寺、院、并、神、之、社、人、亦、向、中、之、有、之、  
所、以、代、領、主、地、領、江、其、付て重出小、  
右、其、付、向、之、より、南、九、月、其、之、迄、松、平、伊、賀、守、方、江、  
の、所、出、江、  
但、組、支、配、有、之、面、々、夫、之、院、之、より、其、付て重出小、

出事

右、通、了、之、所、領、小

五月

安永元之辰年八月廿

水野之岐守、及、其、後

御月付江

閏八月、其、社、領、御、朱、平、地、陸、地、其、所、持、之、  
方、有、敷、江、地、領、主、所、持、江、其、付て重出小、領、陸、地、  
其、之、世、古、寺、之、院、并、神、之、社、人、亦、向、中、之、有、之、  
所、以、代、領、主、地、領、江、其、付て重出小、松、平、伊、賀、







有之進下は打鍋小

八月

寛政元己酉年六月十四

杉平伊豆守殿  
御座候事  
御座候事

大目付

御月付

関八海の内林制禁の隠使炮の持陣の山名又  
と打小者者之由中不届く事なり此等保年  
中五箇山進隠之る事不届持陣の山名打小者

又勿論右等事有之程 名之組頭并材中 主外掛  
今以者込夫、重十法智也 作付小事不 孫等保  
年古福山通之者等坊上隠し之 一不捨使炮有  
之流及承山のあり、逐以味子、之許出山了  
一許延引、一外有持野有て為重料不  
本関八海の内法料大出代友所和飲之飲之地頭  
あり 又急反て此中付中

一近年在江替式天家指御領分知之内上地之者成  
代地之下又八坊所管南分此等、所此作付不  
節使炮改帳且又頼師之り、此等文并使炮  
礼上模和届去未 使炮改江差出山後延事、在







可也何重其事

一欄所集荒不蓄穀打少外之在并所方近糧陳  
炮打中百發有故此代皮飲之地取方之百九  
遂以味每年一取之鉄炮改江沈文可通也  
明事

世四月

何國何新何村

右和原分何之村寺社銀其亦在改以也鉄炮所  
持之者其地地以除自今以收其即鉄炮所持社  
百發有中付村切者之五人但方有手形亦在

甲午為其地其理之以上

年号月日

誰

不判  
書判

何國何新何村

右山上鉄炮何提浪人所持集有此地反其上之  
其內有付也此又古子細有之該北中言中以是探  
子承應急波匠中上之上其後中中以是探何  
方方之浪人集其有鉄炮所持付也子建  
永上之市小自乃以存防浪人今其限炮所持不  
信其持之改之市小為其地其理之以上



年号月日

家所

准平判  
出判

何國何新何村

右領分孫在浪人銀炮何挺所持信右之銀炮  
之白穂古少之志事兼教生一切仕り及之者  
望中付面之手形之並申之狀以後何方有浪人  
銀炮所持仕之在比愿之申之右浪人之由有付  
供託又之他所江之申之持系仕之之申之  
内防之申之為之申之新地仕之以上

年号月日

家所

准平判  
書判







元和四年五月

五十四

奉行

内玉府采野村之間

徑與別官逢上上座既四人

切數以中於上無令陸力同

均令持之在後山覆衣

無令子三於後可也

憲教類典

五

十四



東海道志

西本村  
五ノ十四

元和四年五月

伊勢之内玉府平野村之間  
延興別官途上座以四人  
切殺以首 於中七能合陸力同  
其科を起す 以獲其  
一と 姑舎子三拾枚可なり  
者

寛文十年四月八日



寛永十癸酉年八月十日

是

一 町人跡藏し子存命し内六人  
 徳に相即し其之所し年終不  
 不届者年下即之及末初節  
 目達し其進言者是多矣  
 一 町人之家僕と云ふは向端主

人改身し其の但之人非方  
 多し一 隨程非一裁即し  
 一 親子ありし其の親次身し  
 一 隨程非其親非分也  
 一 家僕目安上ら其の業  
 一 侍中其の松平大陽寺牧北  
 内通路か其民能お備状に  
 法一 一代良而し其の松平



右邊の古史 伊丹格 戸多書状  
流のまゝ人 目安 表の付  
下まゝ

一 目安裏判 口教を續りて付  
口教 不活出 掌 宰舎 但口教  
本日 後 口教 對決

一 併人 口教 縦段 為口教  
口教 口教 科 口教 口教  
口教 口教 口教

附田畑 壯公 隱 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教

一 口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教  
口教 口教 口教 口教







併一族之縱隨者理不之裁  
併一

一 尸之不立此按義併一族  
可於其不立此按又立之為終  
會之

一 殺害人一子之何一其日也  
或之死罪一乃能令告之

一 且傷君一之其不之其  
能令會或之之料之隨目率

寬文之怪事

一 可之之令を尸族一之其不  
死罪或之能令告之

一 名爲者送一之其不之其  
事

一 名爲者送人一之其不之其  
怪事

一 名爲者送人未論一之其不之其  
者在出按以之其不之其



一 能相法也 諸女 約出 不在 因  
 一 孝 不 為 曲 子 方 又  
 一 盜 人 源 如 兵 事 子 不 定 亦 事  
 一 或 主 人 或 主 所 一 幸 行 之 進  
 退 一 子 一  
 一 幸 行 不 上 而 多 一 一 幸 行 源 科  
 族 占 幸 行 不 上 一 幸 行 一 幸 行

寬文三癸卯年四月

一 山 原 坊 之 奴 英 山 志 一 杯 一 箱  
 一 從 江 戶 割 口 光 梶 之 信 信 不  
 一 一 幸 行 不 上 而 多 一 一 幸 行 一 幸 行

右名中

寬文五乙巳年七月十一日











天和二年戊午十一月十日

友所書行立以書付在何後報  
十所支力曰公教子作法也信  
不直台此皮 國在公房 施所  
竟夜 下中付 教年 美小  
与急 于 於難改 石標  
以校特教 制規 工若物

旨惠与口公教多 候 友  
出圖 官 市 在 友 人 教 一 經  
有口捨人 以友 經 六 十 人  
減 台 世 信 所

元 福 八 乙 亥 年 九 月

不 事 所 征 隨 入 意 予 以 入  
從 公 子 從 意 以 在 一 日 不 能 切







是

一 系部所奉行之人之内白後友  
人之内收取之在在也

一 依之附之 子力日公系部所奉  
行之 任付也

一 只之進系部 子力小俗之付也  
大收進之 任付也

一 子力之西跡之 二從日公七核  
二從在系部 友人支取之任也

附依之之内日公十人依  
是之在系部

一 大收所奉行之人之内友人死  
而後也收取之在在也

一 境之 大收所奉行之支取也  
任付之 是也 任付之 任付也

一 課附之 子力日公大收所奉  
行之 任付也

一 但之 任付也



一 与力三指三騎、口公七騎、  
二 從在命之友人支配、  
附塚附、内言与力口騎

口公十人、塚小口右藏、

二月

元禄十一年庚午十二月

是

一 小他田地出入大概及口指年、

七、為永小他英質地田畑、  
全賣無金、二指年、

右及裁評候他文、

一 永代、口抱、男女英永年

季、公前、口、隨、為、口、製

禁、正、室、三、年、口、法、金、指、水、不

此、子、自、免、評、口、三、若、外、年



正抱以白人曹買年季  
背之故百友子

一 年之人年季前之不推年  
之限以象向後之年季  
限之代在仕以之可為  
相對之法以另其旨以

之稱十四年己年六月

是

一 年之破逃出以科之唯今逃  
之死罪之格以知凡向後之軍  
之破逃出以者前方之無軍  
之者之永軍之付之永軍  
之者之是活以之是活  
之者之死罪以之付之保  
死罪之付之之是之是  
之名亦之是也



一 若頭より欠為河一以者止又  
子領扱以者若一扱不淮一  
科一限宛至一以者付  
一 死罪極以者軍と被逐出以  
有若頭一者欠為被以有  
亦若子領扱以者若一扱不淮  
一 死罪極以者若一扱不淮  
一 死罪極以者若一扱不淮

元禄十四年己未六月  
唯今一以者付一在付一

北と享保三戌年五月十日  
水野和氣守殿  
付中山出云と人た一在  
附札一以者付一在付一

軍扱一美唯今一以付扱扱  
付付付付一永軍一以付扱扱  
一以者付一在付一

元禄十四年己未九月



三都... 是

一 罪及補去... 加判... 付金... 乃... 名... 象... 及...

一 死... 後... 幸... 一 妻... 以... 及... 名...











今述者、色、心、行、身、心、行、  
心、行、身、心、行、身、心、行、  
去、身、淺、第、束、仲、所、盡、在、信、門、  
者、信、人、之、立、或、士、方、之、事、  
公、了、一、以、如、尚、而、了、却、久、信、  
近、迹、仕、以、自、信、人、方、之、人、方、  
人、知、了、以、了、了、了、了、了、了、  
以、由、之、心、行、信、了、何、も、お、誤、仕、  
以、知、者、之、色、石、屈、者、之、難、也、

向、後、至、人、之、お、後、了、無、心、也、  
了、了、了、向、後、也、茶、之、久、信、  
信、也、也、了、了、了、了、了、了、  
由、也、了、了、了、了、了、了、  
名、者、者、無、名、之、也、了、了、  
至、人、之、不、お、後、の、名、之、極、也、  
了、了、了、了、了、了、了、了、  
了、了、了、了、了、了、了、了、  
了、了、了、了、了、了、了、了、



以上

元禄十七申年正月

右一紙評定本下社右様  
お仰せ如 蒙入色振子以申主人  
口お後一 了社右 殆系丹後守殿  
江仁後

寶永元年申年五月十六日

親子之身其外親於美徳  
即此流又古之配者  
也技巧人皇御山人  
若斗江城島右 快面二付中  
意原と申来と毛之文配  
方と申一自分斗  
快面二付一美 不在城分下  
聞子

宝永元年申年五月十六日



右一在保田城常与内务令  
任一在侯右定上

寬永四丁亥年五月

一 借令利是了、其從文書入者  
一 了、其從文書入者、向後利是了  
一 了、其從文書入者

一 家質元金、其出上、若質序  
令一、其出上、若質序  
付

一 家質元金、其出上、若質序  
其出上、若質序、其出上、若質序  
其出上、若質序、其出上、若質序

右一執評定、其出上、若質序

寬永四丁亥年五月











考之也向後 以江右公好之以上

正徳元年正月

正徳乙未年七月

公事 祈 弘 考 者 九 事 行 没  
人 中 兼 考 家 長 考 考 考 考 考  
内 派 考 考 考 考 考 考 考 考  
五 考 考 考 考 考 考 考 考

不 考 考 考 考 考 考 考 考  
謂 考 考 考 考 考 考 考 考  
考 考 考 考 考 考 考 考  
年 月 考 考 考 考 考 考 考 考  
考 考 考 考 考 考 考 考  
考 考 考 考 考 考 考 考  
考 考 考 考 考 考 考 考  
考 考 考 考 考 考 考 考

正徳乙未年七月

正徳乙未年七月



享保元丙申年四月

車をひきつるを遊い、重き荷  
物を持てゆめたる車を引け  
持てゆめたる取巻又も流し、船  
中人を乗せし船如魚つらふ人  
を教は給ふ、あやまち、よくか  
まふ、よのあやまち、教は給ふ  
口し、うらむ、さし、けり、唯今世に

罪科、ふと、引、た、は、地、り  
工を来、け、木、の、形、面、し、及、り  
い、下、終、し、少、事、を、信、し、し、こ、な  
き、故、し、お、え、ん、然、ら、ん、部、り  
し、罪、な、ま、た、り、し、魚、か、ら、ん  
自、今、以、後、ハ、け、あ、し、教、を、と、い  
何、や、ま、ち、ら、し、し、出、来、り、し、人  
を、教、し、し、し、し、一、切、流、罪、し、り  
と、是、事、の、跡、し、し、し、し、七、於、又











但一乃二月七  
十九日降

五月七

八月七

九月七日

十月

十一日

享保三成年十二月十日

而後死罪以除日為定今  
以新進口以稅事方一以言公府

此乃下者除方享保六七年五月  
正任後乃後方乃之合紀年

享保三成年二月

只今中々一以任並者未何以自  
例書在保方之り公是例  
其保以之り時一乃乃乃一陸  
二乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃



向後以任在約以爲之創書之名  
及史之... 者... 以任在之考  
右... 十一月十九日水野和泉殿  
之... 任後...

享保三戌年十一月

享保三己亥年二月五日

二月六日於... 水野和泉殿

中山出雲守大國被命書以...  
聞... 承... 承... 承...  
念... 入... 承... 承... 承...  
一... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承...



享保四亥年二月五日

享保四己亥年二月十五日

水野和泉与殿 評定不一 此日由口上

書

公茂水用和希云云 中若云和由乃  
之命之申 之儀 經 江 一 日 若  
之 年 江 行 出 也 辨 之 之 之  
の 得 大 向 後 之 願 一 命 若 之 之

張りしと云之 設 以 條 下 一 日 難 之  
願 一 日 向 倫 子 進 願 出 也 通 之  
之 在 上 以 後 評 定 人 之 下 通 一  
以 之

享保四亥年二月十日

享保四己亥年七月十九日

是



評定新條及此後所江人者  
之官紙 名是 亦子 出 若大  
口限 設 不 多 者 多 者 一 不  
届 之 白 後 之 運 停 之 新 出 之 時  
不 多 一 若 能 多 一 之 意 分 中  
付 一

若 之 取 所 中 不 接 之 觸 知 之 以 上

享保四亥年七月

享保四己亥年八月

一 諸 奉 公 人 欠 落 之 美 之 人 即 次

才 給 全 海 方 之 美 之 人 之 意

之 中 付 之 事

但 給 全 海 方 諸 人 之 中 付

以 後 若 停 之 以 諸 人 之 上

限 之 中 付 之 事

一 取 迹 門 廣 亦 之 欠 落 若 是 人











一 事出人出之付之入形立一以  
法人一 敬之不及 是矣 是矣  
能進下下以但 借令節之付之  
之 店之 者之 新中名是之  
一 法人 名後 以 後 至 人 之 形 也  
一 以 大 五 上 中 名 是 之  
一 在 進 川 願 入 欠 後 者 之 法 人  
自 然 被 名 後 以 生 之 人 是 令  
中 人 在 進 之 法 人 之 事 也

若 出 之 一 在 進 物 之 常 條 之 者  
之 中 付 右 欠 後 之 名 而 若 也  
店 法 人 形 進 以 之 不 能 成 者  
法 之 之 店 之 事 也 以 之 法 人  
之 之 料 之 中 付 之 若 又 而 店  
若 店 法 人 之 之 生 不 中 之 事  
之 之 料 之 中 付 之 右  
之 之 料 之 中 付 之 右  
之 之 料 之 中 付 之 右  
之 之 料 之 中 付 之 右



一 諸借令買を出入り交渉  
出の口切又古者し身体  
限も下付し流又加判  
人、多しとおろし古商人  
加判人、友方下流方下付し  
但南人加判人、致欠為  
いり右出入り古者し  
し古者し出入り古者し  
古者し古者し古者し古者し

一 前持く多唯七出の色下  
付し右の前持成、商人、至る  
経不見、而元、能之、出入り、古者し  
い、古者し、商人、身、限、下、付  
南、古者し、古者し、古者し、古者し



一 諸人各為又古不屈者、以仕在  
成、其有自之、家之、波、徒、判、以、小  
及、古、以、以、人、と、事、古、人、在、對、  
一 侍、以、外、事、古、人、給、金、借、金  
亦、一、美、之、自、信、人、又、古、家、之、小  
人、從、招、之、為、友、方、の、為、在、所  
方、一、自、以、之、事、實、之、一、若、之、の  
信、人、侍、於、方、一、之、其、之、人、の  
以、改、不、一、の、以、改、不、特、多、一、の、  
一 事、古、人、出、入、並、法、借、金、買、裁  
亦、一、美、古、人、侍、以、以、家、之  
又、古、信、信、人、の、近、來、所、  
侍、一、侍、之、古、條、一、之、向、後  
在、宛、以、之、

名、一、板、急、友、亦、以、以、一、古、所、中  
一、一、編、知、之、

享保口美年八月







是下成爲とい均先 至年 翌陸  
或人を教しし所なりしと綴  
お止ししと申はらしむるも  
ししと似せ蹟を 海世に交  
おしし一止仕は均見を後 あり  
りしとぬ出たしし 版を致す所  
そふを三らとて 之を三人  
者出年ししと 此は 己料 下井  
享保四年九月

右井上河内守殿 中山出雲守  
乃向後 此後

享保四年十一月九日

此老中 此列能 此上 此下  
此後 此の 此能 此年  
此去 此後 此一 此  
了 此口 此守 井上 河内 守 殿 此



以了山古村の山江海、其の  
し山江海、其の山古村の山  
以了山古村の山江海、其の  
山古村の山江海、其の山古村の山  
山古村の山江海、其の山古村の山  
山古村の山江海、其の山古村の山

享保四己亥年十二月九日

戸田山城守殿

一

近年金銀出入帳、其の  
定不考合、其の山古村の山  
扱、其の山古村の山江海、其の  
山古村の山江海、其の山古村の山  
買扱、其の山古村の山江海、其の  
山古村の山江海、其の山古村の山











一者一紙之由也 只七通 未行也  
如

一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也  
一者一紙之由也 只七通 未行也

一者一紙之由也

一者一紙之由也

享保四己亥年十二月

一者一紙之由也

一者一紙之由也

一者一紙之由也

一者一紙之由也

享保四己亥年十二月

是

令至館如入一美之付之月十三日



其觸人之付之報急交之亦如  
之如以口示之其付以之  
觸之也其聞不觸人自存終  
交之其付較不持難從中  
有之其付以味之其急為中  
其付另其付所中其觸知  
也

厚保之庚子年正月廿五日

一 以仕金者之何之罪之此  
罪何之罪之遺源或之述  
其之料戶之大概定法之  
其極書之是時之其之  
其罪之悔之依之對砂段  
其甘下地之  
一 其之出入之其之他人之罪若  
其之其之其之其之其之其







世書付之幸仍五錢 所城  
和百學水野和泉古殿  
仁廣

享保五庚子年二月

毎月江古の事合し者付  
泊新し者上書下料は他家  
初泊古是は者又也事合し

泊古是は者上書下料は他家  
初泊古是は者又也事合し

享保五庚子年二月

久世大和書殿人三書以は道通は古書付

是

一科人又ハ此仕是者付書付は  
手乃出は古右科人各書し上  
何月殿ハ端り社友と書しハ  
入年



書付一可也

一 論儀者也 一 論小宗者也 一 論  
遠也 一 論近也 一 論同也 一 論異也 一 論  
一 論及也 一 論不也 一 論是也 一 論非也

者 一 論也 一 論向後 一 論向前 一 論

子二月

享保小廣子年二月

水野和氣少殿

乃是誠意也

耳鼻 一 論也 一 論也 一 論也 一 論也

一 論也 一 論也 一 論也 一 論也

小且 一 論也 一 論也 一 論也 一 論也

一 論也 一 論也 一 論也 一 論也

子二月

享保小廣子年二月



有る多摩川に渡りて

大島成前書

借令銀兩買はるはし海に  
美自今と事行新らあ  
付名らしを巧は是は  
毎を侍らせ或は買を令  
を不拂者方し不わら  
下出不由し不を紀明て  
し方去冬右觸り知は成

若し令踏出入し多し一  
不し出若し所と外は  
い事行あは不及死扱  
前し切令は口迄通し  
付多し美向後不し付  
と海船をよと侍は  
又令借令等不其海は  
相と物来し切はは  
一は一何是先不物明







享保五子年四月十日

口上より一腹是  
有法の家は志をばめぬあり  
一者神の役人言を蔵人出候事  
後出入候事此は神と別合  
下候一以り別言及候此は神と  
をり付り候事此は神と別合  
入候事此は神と別合

子四月十日有候事此は神と別合  
一井上河内守候事此は神と別合  
仁  
国

享保五庚子年六月

水野和泉守殿出候

井伊徳守  
中山出候事  
伊勢伊勢守

一 諸君申出候事此は神と別合  
此は神と別合 石相綱候事此は神と別合







享保六年六月

享保六年六月廿五日

水野和泉寺殿内

所奉江戸

三田目町

名主 後八

右 徳川一 托女 氏名 若夫 氏名

之料 中 付 付 托女 氏名 若夫 氏名  
之人 列 若之 料 出 之 後 八 始  
家 之 女 人 他 之 名 是 又 之 料 出  
夫 之 付 江 戸 中 之 名 主 氏 名  
、 後 八 若 一 之 付 托 夫 氏 名  
以 夫 氏 名 付 付 氏 名 之 付 一 氏  
名 一 合 氏 氏 名 氏 名 氏 名 氏 名  
氏 名 氏 名 氏 名 氏 名 氏 名 氏 名  
氏 名 氏 名 氏 名 氏 名 氏 名 氏 名







以之付新穀之料 南佐人

百一廿八

りて札

以之料深為底至

享保太康子年七月

并之河内出城口渡

大岳城系古下

是

一 望人由仕進一 其右腕无羅小

命一以相見 向後之人一 家

忌入 或之 古花 別とを 彼邊ハ

一 一 以 其ハ 巧以之 一 美ハ

另望之 其ハ 合之 雜物ハ 輕重

多ハ 不ハ 一 以 一 巧ハ 一

一 之 之 一 巧ハ 一 巧ハ 一

不 系 少 少 一 相 望 之 其 之 雜 物

子 檢 査 位 一 雜 物 加 入 一 惠 後 續 了



名：准——即：山部入部  
遊：放——  
者：——南——公——仕——  
升——

享保為庚子年七月

戶田山部与地山部

大忌 欲家与裁

一 山夜限——北女与一若先

五月 山仕是也 山部 山部 山部

一 是遠——山仕是也 山部 山部 山部

山仕是也 山部 山部 山部

山部 山部 山部 山部 山部

山部 山部 山部 山部

一 限——北女与抱也 山部 山部 山部

山部 山部 山部 山部 山部

山部 山部 山部 山部 山部



孝明の親元叔の親類の内  
二階の夜中若者より一年  
孝明の松女五人石連河幸行  
新の海の中舟海に  
双方水鳥 右邊のくくく  
孝明の右女二階九若の右邊  
の又右の年孝明のくくく親類の  
二階九若のくくく松女五の右對  
のくくく二階九若のくくく  
のくくく

右のくくく右のくくく  
右のくくく右のくくく  
右のくくく右のくくく  
右のくくく右のくくく  
右のくくく右のくくく

享保五庚子年八月

井之河内当波少殿



身社奉行

所奉行

此奉定奉行

此仕是者一併し内、欠病者杯  
多し、其若身中、付不身出  
以好之、病者難成と一  
併し仕是者迄、多し、付梅江  
し若し及廻美、事、以名欠  
病者身、内、六月、七日、

不身出、小お、  
残し、若し、  
了、身、  
以、  
付、  
名、  
若、  
、  
、















享保五庚子年二月廿日

加納意以与成算 年左史 山中用  
以与先の訴状 外と在徳公若  
く夫此味仕下控 与了付也  
と了中 由山ん 均先 乙年一 乙  
以者 而く 亦守 中 以 及 中 召 是  
以腰 押 杯 有 以 如 之 在 用  
以 此 味 仕 仕 下 控 事 以 以 辰

若 山 中 傳 以 所 山 之 遠 江 与 成 算  
以 他 是 年 左 史 相 傳 中 以 公

享保五庚子年十二月三日

戸田山城与成算

寺社奉行

所奉行

山越奉行



河内之者、自是源氏之者、  
子之、向後、博、以、男、子、合、了  
是、如、幻、如、也

河内之者、若、内、道、源、之、成、之、  
子、古、出、博、之、方、出、書、付、如、  
之、付、局、戶、田、心、城、方、做、下、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、

之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、  
之、成、之、成、之、成、之、成、之、

享保六年二月九日

遺教、中、之、者、之、美、年、是、不  
之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、











享保六年丑年二月十日

日十言和泉寺殿正堂の  
間、去言の寺付、  
若此人、手印、  
後、欠、  
寺、  
下、

享保六年丑年四月

戸田山城寺殿

寺社奉行

町奉行

山崎定重

一 法江人を始  
分 和曲  
子











右一色向後唱下  
心二

享保六年七月十二日

井之河内弓成出後

町奉行

以仕至者一内遊轉之告白後  
所辨之唱下

享保六年丑年六月十四日

加納喜江弓成出後

町奉行

一火附

一遊絨一之之人を教へ

一之遊絨

右一科人日記中



此類經名之隱一或之遠世  
以者一也

一 家 族 關 系 所 掛 下 付 也

一 唯 唯 口 端 南 往 來 之 人 數 也

者

若 一 科 人 口 數 之 一 也

其 者 一 類 經 名 之 隱 一 或 也

之 退 也 一 者 一 也

一 子 子 下 下 付 也

享保六年五月十日

井上門内少殿由屋

寺社奉行

所 奉行 也

由 勘 定 奉行

万石以上之類一者 輕中科一  
者ハ 所 奉行 也 後 所 奉行 也 以 也



仕進て付付 縦進叙杯少く  
以先一旦以地 幸一於彼地  
仕進て付付 縦進叙杯少く  
石以下之分地 既而難後美  
て方し以方 下方他界の向後杯  
く叙を以 付書付を書付て  
此の以以

壬戌月

付書付し色お白付下し仕進

よのり何し仕進て方し  
上右者く叙を道正か之く  
門 江戸の立役の者く方し  
方し 存るは也 右者く又拾人  
之内わ人く減下ん元は  
右右者く 仕進の由は信團

享保六年壬戌年五月十日



新紀元在来りて、廣仕りて  
崎りと堅交り、年當り成り、  
方り、見槽表色、方り、穴藏  
本戸門並、亦、新紀元  
一  
白々、初發、形、出、名、之、所、

名、之、家、之、水、人、但、之、今、場、有、之、  
繪、島、小、り、一、一、此、亦、遠、原、果、也、  
亦、連、判、仕、所、出、所、一、付、之、繪、  
島、之、心、之、下、也、一、隙、氣、也、  
一、此、一、田、畠、今、日、の、地、也、一、下、  
一、付、一、亦、亦、併、一、言、又、之、  
一、是、亦、遠、原、一、り、一、出、亦、一、而、  
一、田、畠、今、日、の、町、人、亦、亦、出、亦、  
一



右之... 昔年... 代... 出... 不及... 志之... 葉... 不及... 所人... 不及... 一

一 達... 氣... 和... 徒...

一 然... 也

如唯... 述... 氣... 之... 善... 好... 自... 知... 氣... 善... 氣... 名... 人... 但... 際... 如... 之... 順...

在... 後... 味... 法... 合... 德... 氣... 之... 氣... 出... 之... 波... 善... 法... 如... 一... 竹... 內... 氣... 合... 下... 台... 出... 易... 友... 出... 出... 之... 音... 之... 前... 方... 之... 德... 善... 在... 以... 之... 分... 是... 無... 之... 切... 之... 內... 考... 合... 之... 德... 統... 所... 出... 易... 矣... 也

此... 所... 年... 考... 之... 代... 標... 之... 善... 身... 代... 志... 所... 人... 葉... 內... 之... 出... 以... 之... 善... 及... 也



一 新規湯名題を譲法に  
持来名題ありて所を  
譲る

右唯今述ふべきに際し  
其後此味中付く時大自  
然にありてありて所  
名に家之出人に隣所  
有しお徳しに隣系に  
しに後後品面小取し  
果

書連判言形出のり  
内書合  
ありてありて  
ありてありて  
ありてありて

一 仲々ありて一人譲  
右品に述ふ所あり  
自今ハ仲々ありて一人  
譲りてありてありて  
ありてありてありて



一久離久為快活部  
右唯々々々々内勤合  
以好先

自々々々快活部  
勤合合合合合合合  
子也 此而清々々々

有々々保辛是年六月十八日  
如金出大忌 城系  
寤以可觸

享保 六年 五月 十九日

死 嚴 以 仕 主 子

死 嚴 以 仕 主 隆 日 向 接 也  
以 隆 以 急 公 以 定 無 以 在  
然 以 括 進 口 其 外 以 統 事 亦  
有 一 日 以 公 附 以 以 以 隆 以



享保六年正月

寺社奉行宛之配之者ノ町年  
行支配ノ者ハお是ノ出入唯々  
述々 江戸之内 隣町ノ者ハ  
判附評定下ノ出付先自々  
一月廿一 寺社奉行宛之配出  
て之所江ノ内 家之者ハ五人

徳太お子并家立者之五人但立  
合来ル哉口述々内ノ者ハ  
若石坊明々ノ哉口 双方石  
是飛出役下ハ 出裁得下  
下地ハ 者

右寺評定下ノ出付先自々  
以之 那出ノ口限ノ者ハ  
石田者ハ 付委お是ノ口  
小出者遠ノ者ハ 是ノ色ハ











君揮毫、故稱杯、  
者、  
名、

享保六年 己未 六月 廿四

戸田山城守殿 四後

張

是

一 南 春 大 火 廿 日 方 西 山 山  
全 洋 借 水 紅 廿 日 正 年  
大 事 廿 日 廿 日 廿 日 廿 日  
一 彼 是 全 年 廿 日 廿 日 廿 日  
右 洋 借 水 網 廿 日 廿 日 廿 日  
子 廿 日 廿 日 廿 日 廿 日 廿 日  
新 入 廿 日 廿 日 廿 日 廿 日

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一







下

心

享保六年正月六月

是

一 桑穀之類 換失之 能出  
一 新田畑 換亡之 能出

是 善法 川 際

おし 悪法 川 際

乃 田 畑 換 失 之

一 新田畑 換失之 能出

外 一 害 之 多 少 不 可 計

了 概 古 田 畑 或 古 田 畑

さ 場 亦 一 際 之 不 可 計

了 方 一 矣 之 以 桑 乃 田 畑 亦

之 乃 田 畑 亦



一 唐南入用... 山林を伐  
出... 交易... 山... 伐

一 倉物... 勿... 不... 潤  
沃... 根... 生... 根... 潤  
酒... 菜... 根... 多... 潤

一 高... 賣... 羅... 德... 色... 別... 石... 是... 水  
と... 如... 七... 比... 一... 比... 一... 如... 数... 多

仕... 物... 西... 養... 衣... 履... 靴  
及... 茶... 履... 靴... 衣... 履... 靴  
及... 茶... 履... 靴... 衣... 履... 靴  
及... 茶... 履... 靴... 衣... 履... 靴

一 在... 外... 花... 新... 足... 也... 物... 無... 賣... 買  
等... 所... 一... 人... 多... 集... 集... 集... 集...



美之所、  
張いさ中、  
之、  
以、  
小、  
根、  
小、  
中、  
付、  
る、  
為、  
り、  
す、

一、  
故、  
外、  
く、  
一、  
と、  
高、  
物、  
像、  
の、  
高、  
直、

二、  
賣、  
出、  
し、  
い、  
さ、  
多、  
し、  
利、  
徳、  
を、  
む、

三、  
月、  
の、  
り、  
ら、  
し、  
美、  
の、  
糸、  
以、  
味、  
い、

一、  
つ、  
と、  
せ、  
中、  
り、  
為、  
り、  
す、

但、  
高、  
初、  
一、  
所、  
の、  
法、  
也、  
中、  
並、  
し、

賣、  
出、  
は、  
其、  
爲、  
ま、  
な、  
ら、  
ず、  
中、  
に、

り、  
ふ、  
才、  
是、  
又、  
其、  
中、  
り、  
為、  
り、  
す、

一、  
西、  
く、  
不、  
し、  
上、  
出、  
し、  
る、  
法、  
也、  
運、  
送、

不、  
自、  
由、  
の、  
い、  
は、  
又、  
上、  
途、  
中、  
に、  
始、

ら、  
換、  
失、  
中、  
に、  
損、  
を、  
付、  
す、  
中、

り、

一、  
條、  
の、  
方、  
に、  
色、  
法、  
人、  
一、  
同、  
の、  
法、

一、  
の、  
法、  
殺、  
他、  
出、  
来、  
り、  
多、  
し、  
人、  
の、  
分、  
法、

一、  
の、  
法、  
費、  
大、  
小、  
の、  
損、  
を、  
付、  
す、  
中、

一、  
の、  
法、  
要、  
中、  
に、  
付、  
く、  
に、  
外、  
を、  
し、  
中、







一 惣論此仕立一系要之仕  
上在いし方 設不なとて  
法立の記といし末し  
役人迄も能く勿れ仕立  
設とのいし方 此年迄世  
ともなし 名在川橋  
い紙の仕立の依り書付末  
の記といし方 去年は仕立  
の記といし方 仕立の  
仕立の記といし方

享保六年七月五日  
是

一 惣論新起の美芸物織物類  
一切仕立のいし方  
一 古物草紙の類是又新起の仕



之より、其に用但、其付事、  
了、其行、不、其、其付、上、其付、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、

其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、

其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、  
其、其、其、其、其、其、其、其、

不知年号二月廿一日



今度年取为 院使甚心津浦殿  
池小路大綱之殿 法宗寺大綱之殿  
江戸市向口 乾史由一方に結ぶ  
振之人是十人 上下より 佛宗  
出中は其外 池小路 大綱之殿に  
結ばる結ぶ 是之に 下り最  
く成り 片人 是馬 亦速く 是之に  
下り知若之

法宗寺

大綱之殿内

柏内近

池小路

大綱之殿内

堀内土中

芝心

中綱之殿内

如前七在也







一 中川 出處 不 以 用 船 一 奉 小 網  
所 一 渡 之 由 一

一 伊 集 平 傳 子 結 債 傳 子 觸 一

上 十 五 日 大 傳 子 所

下 十 五 日 南 傳 子 所

伊 集 平 傳 子

上 十 五 日 南 傳 子 所

下 十 五 日 大 傳 子 所

結 債 傳 子

右 一 長 北 城 一 是

德 中 寺 觀 音 寺 右 網 之 及 用 共  
早 天 江 戶 出 之 一 也 一 人 是 之  
拾 人 傳 子 廿 八 之 伊 集 平  
之 執 如 付 之 人 之 及 中 進 之 不  
仕 振 之 有 用 之 傳 子 外  
結 債 子 振 之 之 入 之 條 之 也  
之 始 之 也

三 月 廿 日

安 田 三 月 廿

三 月 廿 日 書 片



江戸と京都に名中  
同屋年暮中

年号月日不知

一 評定不取口 毎月 旨十言 古二口  
此是申是人 此如 席是 南口 月暮  
此方より 子力二人 此但 既相之是  
人出 一口 公 換云 人 之 友 但 十

出 一 但 但 既 不 友 却 一 口 之 合  
毎月 古 十 古 古 古 古 古 古 古 古 古  
此 在 南 口 友 但 十 子 力 二 人 一  
却 一 但 但 既 不 友 却 一 却 一 却 一  
口 之 出 一 口 之 出

一 同 考 合 毎 月 九 日 十 日 在 七 考 寺  
社 考 行 所 考 行 出 考 定 考 行  
考 月 考 一 考 考 考 考 考 考 考 考  
此 考 大 月 考 自 考 流 考 口 考 一 考 考 考 考



一 河城也

一 目安裏也

此目安裏也 乃致也 若  
之付也 何日 詳定所

之在出 之對候 若於也

之為曲 之者也

月

初判 月書

右宛 系 之 古品 之 為 被 交 也

也 之 也

一 死刑人 獄 之 事 因 獄 事

者 正 者 檢 物 所 之 是 板 札

網 之 外 入 用 物 之 所 年

者 之 也

一 犯 科 人 或 火 罪 或 禁 之 也

者 妻 子 之 事 男 子 之 斬 眾

妻 子 兼 女 子 之 奴 之 也

但 此 代 友 不 之 因 獄 之 後 之 給

不 之 之 地 既 之 也







又言殺害不遭以於所方之不  
及中侍所步社以代友所  
想

神城近也古里以方之用告  
來刻其報也子能之  
祈之三日西之  
在右曝以三日內死難  
主出時町人百姓亦之得  
死難之在者古連

死人中後多社方侍付也  
被殺之者死難之人  
不使上乃成死人  
了

一 社公者一事社家仕不坊  
美所出者多一良之住居  
不取正一友者不口公是人  
一 友人戶副件一者家  
而送廟後日小年尔小名



出所：中付し

附礼公者宿尔古笔也  
系難成し旨執人之訴  
江中如如之能令中付  
以但中如如成し如人  
之即中如如出能し

一町人古法し男女兼借是し  
半自害首經し又訴来  
是族使し旨し支費訴し

年春日公或人走路し以古九  
し子細之性し然し但し  
告身し通し中分中し事海  
格使し是字し何し勿偏石皮  
格使し

一武士所人亦奴婢名爲し  
頃所来し其情面し然し  
重し右欠爲者古返如身  
名是し其又身代金九居



順孝之代名情面之與之去付  
長掛無了子

附所人借者之者較欠  
者以之件之者殘無了  
家成難相不妻細書付  
妻不之持系付所之在  
之家之去人從日付走  
後日之付持系之去月  
者之所年考方之在行不

今年考日之考原考之  
欠不情小之之所方圖  
不考之細無了子

一 妻敵之事之在押下  
男女考之較教客之支小持  
之之若密懷之替之別原之  
造恨之在稱妻敵及之原  
次考之考之明之之而備  
裁許考之考之考之考之











一 凱烈し 高月夜し 所年考方  
火元用句し 美し 中付分し 是  
子

一 石隈登顔出火し 高し 遠近天  
小火元 小舟し 口公きし 火元  
こし 船焼失し 家数異し 書付  
うせし

一 大し 中し 高し 一經し 内年考方 口公  
一 友人 在事 仕交 口公 自分し  
し 一 元 見 口 中

一 口公 捕者し 口の 胎元 言し  
在立し 若し 捕し 及し 一 腹し  
し 子 一 子 在し 一 小 澄人  
在 捕し 高し 了し 子 中し 一 一  
初し 捕去 仕 草 刀 一 一 眼 元 小  
し 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



首尾ふりて下義と在り  
子

右に首尾中案と在り  
為山鷹負以金と在り  
詰りて

右記月号日

一 款付

款付し帳列紙と在り  
帳中末と在り  
帳面並主と在り

帳目並主と在り  
帳面並主と在り

右為人  
捕りて  
帳目並主と在り

帳目並主と在り  
帳面並主と在り

帳目並主と在り  
帳面並主と在り

帳目並主と在り



一 路に有し死人を

不令ソウ方と云はれ行創成と

は切殺すし由所方ハ不及り侍

町幸社方ハ代友方也

河城也或は里口方ハハト出たも

分 状由に記し云さうし

平一由り付き之程と云さうし

以内死難し之出生はりの

のよめハ尸體しを不し者

石連一由り死人を尸體と又侍

中如家社勢方し彼官等也

ハそし死人と云人ハ

侵者を居城尸體を侍也

一 弘安者

弘安者ハ石城也或ハ

し然れ者ハ石中を正し

岩家ト口を老人ハ

岩家ト云ハ後日卒也



不中所以取之戶計之附社業者  
若、因込至了者、凡拔出行法  
不分明、財名を、あ、若、不、在  
之、情、能、中、以、若、之、在、以、不  
在成族也

公候、許、江、中、如、何、了、務、令、中、計  
本、家、在、如、何、人、之、許、中、別、出、家  
以、之、せ、中、是

一町人、中、女、中、人、借、包、入、者、自、害、中、子

自、害、人、中、美、中、朱、換、使、中、中、中  
以、之、友、為、中、下、年、券、中、公、中、人  
在、一、旅、中、口、中、在、取、中、派、中、上  
情、中、附、在、中、中、分、中、中、換、使、中、在  
中、中、不、在、中

一傾、城、所、一、喧、嘩、中、中、中

於、傾、城、所、喧、嘩、中、中、入、切、勝、中、中  
之、地、先、中、子、在、中、端、中、為、在、中、中  
以、之、中、若、不、在、中、券、中、中、中



一 欠落

可人成り待方し面し奴婢者  
欠落し刺し腹し果し快し付  
進く相室に在し、欠落者若し出  
し得て如きあり、右法し之又右方  
之代金をとる迄し一暇をせしむ  
るありしを中出らるる者し快面  
し奥に記し、息をとけ進く但所  
人床借し、その致欠落し刺し

手如奔人し、殊に面し、賄物を  
一、古し、侍ら、水取、而古、坊、末、仕  
少、取、小、欠、落、者、若し、家、之、女、人、但、小  
し、付、室、に、在、付、新、出、し、刺、し、丹  
者、し、所、年、考、し、宅、に、位、末、行、不  
年、考、口、公、元、氏、保、也、し、一、國、不、快  
張、し、所、の、國、不、免、し、酒、也、し

附、欠、落、者、之、の、こ、金、沈、不、城、也、し  
若し、當、不、し、在、お、快、し、身、也、し







於陸浙江者中諸人今上諸人  
方而上諸人中一不之代初無甚也  
中是

一 從前久離

親子足身姊妹婿從身或  
善伐之奴婢亦不美此及之子  
細依身一較久離之別  
謂執之身行而止許惟句  
沈之置之身以後亦不氣和

睦嘉南一美教一不亦如  
至之為不占以狀之消一  
二

一 盜賊一途

盜人入江邊以賊相去付一  
惟由之流一置之江邊之身外  
人見如一一友不而居之口  
勿偏之身職相圖而相之如以盜  
人之過以若於見出之如之亦如



下之附侍船市船小流  
失以刻刻不移子  
与不知其即快自是之  
片右右口

一子所願

汉口偏開洋航之原、或过  
或更流打何、以江航  
之、之航、者不、海快  
是之航、少、洋偏、

一唯唯

嘉祿在坊内、及和族出入  
之、之、在坊、不、其、快、  
一唯唯  
在坊、人、可、人、之、  
致、以、之、在坊、人、之、  
取、之、之、在坊、人、之、  
之、之、之、在坊、人、之、  
之、之、之、在坊、人、之、



之但双方町人多れ古手負  
若生りてさ世南人ハ新令中  
身お子の中腹ハ成お子ト祈  
証ハ別出ハ終ハ身之若お子  
有ハ成ハ合死去ハ切人ハ  
終ハ心ハ成取リテ是

一女敵

庭髪を揮ハ男女在ハ於被教  
害ハ中夫ハ梅ハ若巻懐ハ  
咎ハ之を別美ハ加甚恨祿  
女敵主ハ次ハ不知ハ勿偏ハ  
段裁取ハ之場ハ換便ハ老ハ  
ハ

一法文

ハ以前ハ法文ハ信ハ若ハ為ハ  
其所ハ事ハ不ハ被解ハ若ハ習  
サ世ハ之ハ後ハ至ハ年ハ之  
信ハ及ハ事ハ概ハトハ年ハ此ハ文











丈夫一不女一人不斗一  
一十懷妊一十世一  
一即妻一者一主人一梅一  
一但裁神一主人一公一  
一十世一及一物一十女房一  
一十世一及一物一十女房一  
一十世一及一物一十女房一  
一十世一及一物一十女房一

一町人系判之落一  
一子一当一不一即一快一付一快一

一質一  
一質一  
一質一

質物取一判一諸人一を一在一在  
一子一を一借一  
一限一を一定一之一者一不一  
一以一不一及一質一  
一質一  
一質一  
一質一  
一質一



一 法色 買取し

与 物 持 出 衣 靴 履 物 或 少 未 也  
不 法 色 買 取 以 別 小 帳 小 者  
を 見 立 他 人 諸 人 を 丸 買 取  
証 取 上 若 出 入 之 出 入 去 買 人  
了 也 故 也

一 今 法 色 高 一

先 年 多 之 於 商 賣 一 望 停 止  
力 一 上 也 今 法 色 二 高 一

出入 古 裁 律 之 一

一 近 古 地 色 一 同 色 一 物 物 也

同 色 不 下 一 宛 不 書 之 送 出  
之 色 一 一 上 一 下 一 一 宛 物 一 同  
色 不 下 一 宛 不 書 之 送 出  
色 一 一 上 一 下 一 一 宛 物 一 同  
色 不 下 一 宛 不 書 之 送 出

一 法 色 賣 買 一

同 色 上 中 買 一 者 大 一 賣 取  
別 一 手 付 一 買 取 一 書 付 取



判を紅魚〜同を方々在快  
二会原判仕買至方々以集用  
了是魚〜無一性命原二  
出入在所了其外能人を  
死至了〜若引原方々付  
能人方々在所了

一 於物〜

海陸〜江隔法色拾い〜何  
刻を不移子〜當所ん〜

性〜付〜若者〜拾物隠在盜  
物方々〜何は盜人〜事  
以々〜中〜け〜ま〜ま〜

一 方物同原〜

信細〜を〜信〜付〜大〜了〜録  
〜長〜三〜日〜尺〜幅〜を〜人〜守〜之〜布〜止  
綿〜一〜回〜録〜〜長〜三〜丈〜四〜尺  
幅〜を〜人〜三〜寸〜

一 吳服高賣〜



女院竹新 昨方寸一 是表  
身白銀五百目 是表 不傳  
竹卷極上 四肢是表 身白銀  
四百目 竹奉丸 女中上  
少袖之表 身銀三百目 是表  
之表 衣極上 不傳  
流下也 下仕之

一 樽物包 一 奉  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包

右之種 一 奉 樽物包 樽物包  
一 樽物包 樽物包 樽物包 樽物包

一 樽物包 樽物包 樽物包 樽物包  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包

一新 樽物包 樽物包 樽物包 樽物包  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包  
樽物包 樽物包 樽物包 樽物包











其南自從自害之評論仕  
者所之評論之在也之石  
船換授方也 可也若届之段  
之世之之上之也新之換使之  
之 一 若船考之之居改下  
多利

一 所人家他之  
所人之家他之被机航障子  
法之之石之也之能或出之

了之之之石之所人之能之所  
至他之家之之令信止之  
一 友習在分洞之  
分洞之流救控七但之洞月  
百六控云之之之之代控之控  
之之

之百月之洞之 以代銀控之  
之百月之洞之 以代銀控之  
者之新之之 控出之代控之



極平字一 鋼改一 走流極  
平 折代銀八五

一 五石月之 鋼極平 折代法五石

一 二石月之 鋼極平 折代法五石

者一 色一 少石 極平 之 鋼

石 折一 少石 京部 大板 江戸

之 石 少石 折代 後 後 江戸 石

一 方 石 少石 極平 折也 折定

一 石 折 折代 之 出 一 一 用 走

若 平 極平 分 鋼 用 走 者 折 折

一 走 折 折 折 折 折 折 折 折 折

一 折 折 折 折 折 折 折 折 折

一 折 折 折 折 折 折 折 折 折

折 折 折 折 折 折 折 折 折

折 折 折 折 折 折 折 折 折

折 折 折 折 折 折 折 折 折

折 折 折 折 折 折 折 折 折

折 折 折 折 折 折 折 折 折



一 法人振舞しり

少驚しり多洋風披し時老中

旅招待し松木吳五巻三也

石若苦之汁 下菜向後香物

吸毛の 蒸着五種揮し物无

内しりしと 披し時又古考中

法持たりしと少老考し振

舞しりしと為響肥結と之用し

之難状も持大名も付し振舞

二汁 七菜 たろし 小身此

面しりし 縦横約し中し以数量

を用しりし 煮し後戻り吸物惟し

了仕旨し 勿偏し別し又古考

二七 松葉し 菜子し 器之用

多しりし 折櫃物し 石若也

但中振舞し又古相伝人 少し

考合し 旨し 二汁 五菜し 之全

准しり



不知年号月日

拉評定不百姓論海

正 仁付神文

執法文前書

一 論地場有山江在遠山川及谷  
田畑林木如昔是双方立合是  
牧給給是之供立了了

一 論北の双方立合は名 此等  
掛 多為る

一 給原七具負 偏頗不仕振小  
誓紙と波させ了了

名し條し 於在首也

邦文

名し色し立祈し 於能也  
邦前双方出人等 之波誓行是  
方と之口人 之在出若也











中山 信列

笛吹

城後 左

美川

中山 左

箱崎

城後 左

横川

城後 小寺 左

穂戸 左

上野 中壯 左

外科

小本

是 牧 子 歟

城後 小寺 左

市工 是 牧 子 歟

小隆 左

今 所



同

招戶

日中野原

房河後中田

日

新口河段 右是投正形之

年月月日不知

左減文云

如是許訂乃 双方 家之 右之 五  
人 但 之 合 米 亦 也 之 用 之 右  
涉 之 若 不 指 明 以 之 日 七 右 九 附  
双方 右 邊 之 河 出 者 之

誰 為 取

何 月 難

何 所

許 証 人 誰







誰為不

何月新

竹所

何人誰

若也

山溪竹處水

竹院月。七

何人誰



